2008 年 度 事 業 報 告 書

自　2008年4月　1日

至　2009年3月31日

107-0052　東京都港区赤坂1－2－2

財団法人　日　本　音　楽　財　団

Ⅰ　概　　要

財団法人日本音楽財団は、アマチュア音楽の振興を目的に 1974 年 3 月に設立され、設立20年を迎えた1994年からは、主に、西洋クラシック音楽を中心とする「音楽国際交流事業」と、国内外の音楽関連の団体が行なう事業に助成する「音楽文化の振興事業」を中心に事業を展開している。

音楽国際交流事業では、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高峰の弦楽器を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与する「弦楽器名器の貸与事業」を行っている。この事業は、世界的文化遺産といわれる弦楽器名器を保全し、これらを次世代に継承するとともに、それらの活用によって、西洋クラシック音楽に対する日本の国際貢献と音楽を通した国際交流を目指している。

当財団の保有楽器は、本年度ヴァイオリン1挺を購入したことにより、巻末別表 4 のとおり、2009 年 3 月末現在 21 挺となった。当財団は、これら文化遺産の管理者として大きな責務を負っていることを自覚し、保有楽器の保守・保全に関しては、最善の手段を講じるよう努めている。楽器の貸与方針並びに貸与者については、欧・米・アジアの有識者で構成される楽器貸与委員会で慎重に審議されている。

当財団では、貸与事業の広報を目的として、楽器貸与者による演奏会を国内外で開催しているが、本年度は当財団創立 35 周年記念事業として大阪、名古屋、東京の 3 都市においてストラディヴァリウス・コンサートを開催した。海外に関しては 2009 年度開催の準備を行った。

もう一つの大きな柱である「音楽文化の振興事業」の助成金の交付は、外部有識者で構成される事業運営委員会の審議を経て、音楽諸団体が実施する各事業に幅広い支援を行った。音楽の普及と振興を図るためには、それぞれの地域に根ざした音楽団体への支援を広範囲に増やしていくことが重要であると認識している。

また、2007 年度から新たな柱として「地方における演奏会開催事業」を実施している。この事業は、地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、地方のクラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を目的としている。

上記のような当財団の事業の運営・実施にあたっては、監督官庁の指導を仰ぐとともに、貴重な競艇交付金による日本財団の助成金を受けている。当財団としては、国内外における音楽文化の発展に寄与するため、適切な運営のもと、業務体制の充実と事業の一層の効率的実施に向けて、今後とも努力する所存である。

Ⅱ　総　務

1. 役員の異動

2008 年 6 月 5 日開催の第 83 回理事会において第 18 期評議員の選任を行った。第 17 期評議員 12 名全員と海老沢勝二氏の 13 名が選任された。

宮地真澄監事が2008年6月5日付で辞任され、その後任として山内悦嗣氏が2008年6月5日開催の第71回評議員会において選任され、同日付けで監事に就任した。

2008 年 8 月 8 日に山之内秀一郎理事が逝去された。

2009 年 3 月 18 日付けで堀池秀人評議員が一身上の都合により辞任された。

年度末現在の理事・監事の名簿は巻末別表 1、評議員の名簿は巻末別表 2 のとおりである。

2. 理　事　会

本年度は、理事会を下記のとおり 2 回開催した。

第 83 回理事会

開催日　2008 年 6 月 5 日（火）　13:30～14:40

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2007 年度事業報告について

第 2 号議案　2007 年度収支決算について

第 3 号議案　第 18 期評議員の選任について

第 4 号議案　音楽国際交流事業「楽器貸与事業」に係わる弦楽器の購入について

第 84 回理事会

開催日　2009 年 3 月 10 日（火）　13:30～14:40

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2008 年度収支予算の一部変更について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する。

第 2 号議案　2009 年度事業計画について

付帯決議：若干の字句の修正等についてはこれを会長に一任する

第 3 号議案　2009 年度収支予算について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する

3. 評 議 員 会

本年度は、評議員会を下記のとおり 2 回開催した。

第 71 回評議員会

開 催 日　2008 年 6 月 5 日（火）　11:00～11:55

場　　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2007 年度事業報告について

第 2 号議案　2007 年度収支決算について

第 3 号議案　監事の選任について

第 72 回評議員会

開 催 日　2009 年 3 月 10 日（火）　11:00～12:00

場　　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2008 年度収支予算の一部変更について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する

第 2 号議案　2009 年度事業計画について

付帯決議：若干の字句の修正等についてはこれを会長に一任する

第 3 号議案　2009 年度収支予算について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する

4. 登 記 事 項

法務局に対し行った登記事項は以下のとおりである。

2008 年 6 月 28 日　2008 年 3 月 31 日現在における資産総額（ 11,193,936,148 円 ）の登記

2008 年 9 月 29 日　理事変更登記（1 名削除）

5. 主務大臣（文部科学大臣）への届出等

文部科学大臣に対し提出した届出事項は以下のとおりである。

2008 年 6 月 23 日　2007 年度事業報告及び収支決算報告書届

2008 年 6 月 23 日　役員（監事）異動届

2008 年 6 月 23 日　登記事項変更登記完了届 （資産総額変更登記）

2008 年 10 月 3 日　役員（理事）異動届

2008 年 10 月 3 日　登記事項変更登記完了届 （理事変更登記、1 名削除）

2009 年 3 月 27 日　2009 年度事業計画及び収支予算書届

6. 主務官庁の検査

文部科学省（文化庁）による当財団の業務及び財務等の検査は行われなかった。

7. 主管税務署の検査

麻布税務署による当財団の立入検査は実施されなかった。

8. 外部監査の実施

永和監査法人に監査を委託し、本年度は期中監査を 2008 年 12 月及び 2009 年 3 月、期末監査を 2009 年 5 月に実施した。

9. 事　務　局

事務所を東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階に置き、業務を遂行した。

年度末現在の事務局役職員数は常勤役員 2 名、職員 4 名、計 6 名である。

Ⅲ　事　　業

1.　音楽国際交流事業

弦楽器名器の貸与事業及びその広報を目的とした演奏会を中心に事業を実施した。

(1)　弦楽器名器の購入

本年度は弦楽器 2 挺の購入を予定し、弦楽器の市場調査を実施した結果、第 83 回理事会で承認を得、下記の楽器を購入した。現在の保有楽器は 21 挺となった。

Antonio Stradivarius 1721 年製　Violin “Lady Blunt”

2008 年 6 月 25 日に売買契約を締結し、同年 7 月 21 日に日本の通関手続きを終了した。

(2)　弦楽器名器の保守管理

当財団は、保有している弦楽器名器を永く次世代へ引き継ぐため、楽器の修理及び調整内容等については慎重に検討し、名器の取り扱いに馴れている世界屈指の楽器商を指定し、最良の保全方法を処方している。長期貸与に供している楽器については、各貸与者に定期的（年 4 回）に指定楽器商による楽器の状態チェックを義務付けるとともに、楽器商からは当財団に対して報告書（コンディションレポート）を提出してもらっている。なお、年に一度は同じ目で楽器を見る必要があるという観点から、年 4 回の定期的チェックの内 1 回はロンドン在住のアンドリュー・ヒル氏（当財団の楽器アドバイザー）のコンディション・チェックを受けるように指示している。

貸与中の楽器のメンテナンスや修理費は当財団が負担している。これは世界的文化遺産といわれる弦楽器名器に関して、どこで誰がどのような修理をしたかという記録を「管理者」として残しておく責任があるからである。

本年度は、1740 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Ysaye”と 1714 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dolphin”の 2 挺について、経年による大規模修理を行った。今後も保有年数が経つにつれ、微調整には止まらない修理、メンテナンスが必要となる楽器が多くなるものと予想され、予定外の楽器補修に対応する予算措置が必要となってきた。

当財団では楽器貸与事業開始当初より、各貸与者に対して戦争地域及び治安が不安定な国への当財団の楽器持参並びに船舶等での演奏を禁じている。また、国家的権力による楽器の没収の危険のある地区については、貸与者の演奏活動に応じて随時指示を出して対応している。ロシア国は入国時に必ず証明書に押印することを義務付けている。また、中国においては不安定要素が多いことから、原則として、当財団の楽器の持込を禁じている。

楽器保険についても当財団が支払っており、保険ブローカーと保険代理店を通じて 2 社の保険会社と契約し、よりよい条件と料率で付保できるよう努力している。

(3)　弦楽器名器の貸与

長期貸与者を審査する楽器貸与委員会を下記のとおり開催した。

1)　第 14 回楽器貸与委員会

日　　時	2008 年 5 月 7 日（土） 11:30～13:30
場　　所	イタリア国ミラノ市 Four Seasons Hotel Milano 内会議室
楽器貸与委員	巻末別表 3 のとおり
財団所有楽器	巻末別表 4 のとおり
審議事項	現在の貸与状況及び貸与更新について 新規貸与申請について

審議結果

1 年間（2009 年 8 月 31 日まで）の貸与延長が承認された演奏家（15 名）

東京クァルテット

（Martin Beaver, 池田菊衛、磯村和英、Clive Greensmith）

Lisa Batiashvili、竹澤恭子、諏訪内晶子、庄司紗矢香、

Arabella Miho Steinbacher、Viviane Hagner、Erik Schumann、

Baiba Skride、Yuki Manuela Janke、

石坂団十郎、Steven Isserlis

1 年未満で貸与期限が延長された演奏家（3 名）

安永徹（2009 年 2 月末）

Sergey Khachatryan（次回エリザベートコンクール 2009 年 4 月）

Pinchas Zukerman（2009 年 6 月）

今回、新規貸与者は選定されなかった。

また、1700 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dragonetti”及び 1736 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Muntz”の 2 挺は引き続き短期貸与に供することで、委員会の同意を得た。

2)　楽器の貸与状況

2009 年 3 月末現在における所有楽器 21 挺の貸与状況の内訳は、長期貸与用 17 挺、短期貸与用 2 挺、その他 2 挺である。　（巻末別表 5 参照）

短期貸与として、特定の演奏会及び CD 録音等の目的のため貸し出しを行なっているが、希望者が多いことから基本的に貸与期間は 6 ヶ月以内としている。

現有楽器の本年度における楽器毎の貸与状況は下記のとおりである。

（貸与者、貸与推薦者等の敬称は省略）

① Antonio Stradivarius “Paganini Quartet”

貸与楽器及び貸与者　東京クァルテット（アメリカ・ニューヨーク在住）

1727 年製	第 1 ヴァイオリン	Martin Beaver
1680 年製	第 2 ヴァイオリン	池田菊衛
1731 年製	ヴィオラ	磯村和英
1736 年製	チェロ	Clive Greensmith

貸与推薦者　　楽器貸与委員会全員
当該楽器を使用しての演奏　　合計 116 回（聴衆約 89,500 名）
1995 年 9 月 27 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 13 年 11 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

② 1700 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dragonetti”
当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供している。本年度は下記の演奏家に短期貸与した。

1）貸　与　者　　Alan Gilbert：指揮者
貸与推薦者　　大友直人（指揮者）
貸 与 期 間　　2008 年 6 月 9 日～7 月 4 日
来日中の演奏のため（音楽助成金交付事業）

2）貸　与　者　　長原幸太：大阪フィルハーモニーのコンサートマスター、ソリスト
貸与推薦者　　小澤征爾（指揮者）
大植英次（指揮者）
貸 与 期 間　　2008 年 7 月 28 日～12 月 24 日　記念演奏会のため
当初、2009 年 2 月 13 日まで貸与の予定であったが、定期チェックの際に、同氏の楽器の取扱いの不備が判明したため、12 月 24 日付けで貸与を終了した。2009 年 3 月末現在、当該楽器はロンドンで修理中である。

③ 1702 年製 Antonio Stradivarius Violin “Lord Newlands”
貸　与　者　　安永徹（ドイツ・ベルリン在住
ベルリンフィルハーモニーのコンサートマスター）
貸与推薦者　　Simon Rattle（指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　リサイタル 5 回（聴衆約 5,500 名）
（ベルリンフィルでの演奏は除外している）
2003 年 1 月 7 日より貸与しているが、安永氏がベルリンフィルハーモニーのコンサートマスターを退任されることに伴い、同氏から申し出があり、2009 年 3 月 3 日（6 年 2 ヶ月）で貸与を終了した。2009 年 3 月末現在、ドイツで楽器調整中である。

④ 1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”
貸　与　者　　Sergey Khachatryan（ドイツ・Eschborn 在住）
貸 与 期 間　　2005 年 5 月 31 日から 2009 年 4 月 7 日
当該楽器を使用しての演奏　　合計 44 回（聴衆約 63,000 名）
当該楽器は 1997 年 5 月開催のベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールよりヴァイオリン部門優勝者に、その副賞として次期コンクールまでの 4 年間貸与することにしている。（2009 年開催コンクールからは 3 年間に変更）
同氏は、2005 年の当該コンクールの優勝者であり、4 年間、当該楽器を貸与した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑤ 1709 年製 Antonio Stradivarius Violin “Engleman”

貸　与　者　　Lisa Batiashvili（ドイツ・ミュンヘン在住）
貸与推薦者　　Osmo Vanska（指揮者）
　　Alfred Brendel（ピアニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 34 回（聴衆約 56,000 名）

2001 年 11 月 2 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 7 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑥ 1710 年製 Antonio Stradivarius Violin “Camposelice”
貸　与　者　　竹澤恭子（アメリカ・ニューヨーク在住）
貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　David Zinman（指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 48 回（聴衆約 30,000 名）

2005 年 3 月 7 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 4 年 6 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。

⑦ 1714 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dolphin”
貸　与　者　　諏訪内晶子（フランス・パリ在住）
貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　徳永二男（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 57 回（聴衆約 97,000 名）

2000 年 8 月 11 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 9 年）まで契約を延長した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑧ 1715 年製 Antonio Stradivarius Violin “Joachim”
貸　与　者　　庄司紗矢香（フランス・パリ在住）
貸与推薦者　　Zakhar Bron（ヴァイオリニスト、ケルン音楽院教授）
　　海野義雄（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 66 回（聴衆約 89,500 名）

2001 年 4 月 14 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 8 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）並びに福岡でのチャリティ・コンサート：地方における演奏会の開催事業（後述）に出演した。

⑨ 1716 年製 Antonio Stradivarius Violin “Booth”
貸　与　者　　Arabella Miho Steinbacher（ドイツ・ミュンヘン在住）
貸与推薦者　　Ana Chumachenco（ウィーン音楽大学教授）
　　Anne-Sophie Mutter（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 60 回（聴衆約 90,000 名）

2005 年 5 月 5 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 4 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。なお、同氏には貸与委員の提案により 2006 年 9 月 4 日より 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”から当該楽器に楽器を変更して貸与している。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑩ 1717 年製 Antonio Stradivarius Violin “Sasserno”

貸　与　者　　Viviane Hagner（ドイツ・ベルリン在住）

貸与推薦者　　Claudio Abbado（指揮者）

Pinchas Zukerman（ヴァイオリニスト、指揮者）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 76 回（聴衆約 94,000 名）

1999 年 5 月 27 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 10 年 3 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。

⑪ 1722 年製 Antonio Stradivarius Violin “Jupiter”

貸　与　者　　Erik Schumann（ドイツ・ケルン在住）

貸与推薦者　　Zakhar Bron（ケルン音楽院教授）

Christoph Eschenbach（指揮者）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 24 回（聴衆約 24,000 名）

同氏には 2005 年 11 月 1 日より 1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz ” を貸与していたが、2006 年 12 月 29 日より当該楽器に変更して貸与している。2009 年 8 月 31 日（3 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑫ 1725 年製 Antonio Stradivarius Violin “Wilhelmj”

貸　与　者　　Baiba Skride（ドイツ・ハンブルク在住）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 84 回（聴衆約 86,000 名）

同氏は 2001 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005 年 2 月まで 1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”を貸与（3 年 9 ヶ月）していた。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を 2005 年 2 月 22 日より短期貸与したが、その後の楽器貸与委員会において長期貸与者として承認され、今回、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 4 年 6 ヶ月、同氏への通算貸与期間 8 年 3 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑬ 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”

貸　与　者　　Yuki Manuela Janke（ドイツ・ベルリン在住）

貸与推薦者　　外山雄三（指揮者、作曲家）

Julia Fischer（ヴァイオリニスト、フランクフルト音楽大学教授）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 42 回（聴衆約 24,000 名）

2007 年 11 月 3 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 1 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。

⑭ 1696 年製 Antonio Stradivarius Cello “Lord Aylesford”

貸　与　者　　石坂団十郎（ドイツ・ベルリン在住）

貸与推薦者　　Daniel Barenboim（ピアニスト、指揮者）

Krzysztof Penderecki（作曲家、指揮者）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 63 回（聴衆約 56,500 名）

2004 年 1 月 29 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 5 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演した。

⑮ 1730 年製 Antonio Stradivarius Cello “Feuermann”

貸　与　者　　Steven Isserlis（イギリス・ロンドン在住）

貸与推薦者　　Jasper Parrott（音楽家）

当該楽器を使用しての演奏回数　　合計 110 回（聴衆約 114,000 名）

1998 年 1 月 16 日より貸与しているが、2009 年 8 月 31 日（貸与期間 11 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサート（後述）に出演するとともに、プログラムの企画・構成を担当した。

⑯ 1736 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Muntz ”

当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供している。本年度は下記の演奏家に短期貸与した。

1）Yuki Manuela Janke：1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”貸与者

貸 与 期 間　　2008 年 9 月 22 日～10 月 21 日

貸与中の 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”をクレモナの楽器展示会（2008 年 9 月 25 日～10 月 21 日）に出展協力するため、ロンドンでの修理が終了していた標記楽器を代替楽器として貸与した。

2）千葉純子

貸与推薦者　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト）
　　徳永二男（ヴァイオリニスト）

貸 与 期 間　　2009 年 1 月 30 日～7 月 31 日予定
　　CD レコーディング及び演奏会のため

⑰ 1740 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Ysaye”

演奏委託者　　Pinchas Zukerman（カナダ・オタワ在住）

2003 年 5 月 27 日より演奏委託しているが、引き続き 2009 年 6 月 30 日（貸与期間 6 年 1 ヶ月）まで演奏委託することになった。

⑱ 1721 年製 Antonio Stradivarius Violin “Lady Blunt”

この楽器は、ほとんど未使用で、保存状態が非常に優れていることから、将来の楽器製作者の見本となる楽器として、保存・管理していく予定である。

(4)　国内演奏会の開催

楽器貸与者の来日に合わせ演奏会を開催し、日本国内における当財団の楽器貸与事業の広報に努めるとともに、ストラディヴァリウス等の名器の音色に触れる機会を提供している。

本年度は当財団創立 35 周年記念演奏会として、楽器貸与者を招聘し、大阪、名古屋、東京の 3 都市においてストラディヴァリウス・コンサートを開催した。この他に、通常の演奏会を 2 回予定していたが、出演者の体調不良により 1 公演が中止となったため

1 公演の開催となった。

演奏会の実録 CD、DVD 等を作成し、関係者へ配布するとともに、クラシック音楽専門チャンネルで放映・放送し、事業の周知に努めた。

1） 日本音楽財団創立 35 周年記念 ストラディヴァリウス・コンサート

当財団創立 35 周年の記念事業と位置付け、当財団所有の楽器及びその貸与者による演奏会を大阪（いずみホール）、名古屋（しらかわホール）、東京（サントリーホール）において開催した。

当財団所有のストラディヴァリウス 14 挺と英国王立音楽院より借用した 1696 年製 Antonio Stradivarius Viola “Archinto”を合わせ 15 挺のストラディヴァリウスと貸与者 14 名が一堂に会する貴重な演奏会となり、3 会場で約 4,200 名の聴衆が世界最高峰の弦楽器・ストラディヴァリウス 15 挺の饗宴を堪能した。

詳細は、以下のとおりである。

日時及び会場

2008 年 9 月 6 日（土）16:00～　大阪・いずみホール
9 月 7 日（日）16:00～　名古屋・しらかわホール
9 月 8 日（月）18:00～　東京・サントリーホール（公開リハーサル）
9 月 9 日（火）19:00～　東京・サントリーホール

9 月 9 日の公演については、実録 CD と DVD を作成し当財団の広報に活用した。

出演者：財団楽器貸与者計 14 名、伴奏者 2 名

Viviane Hagner（Stradivarius 1717 年製 Violin “Sasserno”）
Yuki Manuela Janke（Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”）
Sergey Khachatryan（Stradivarius 1708 年製 Violin “Huggins”）
Erik Schumann（Stradivarius 1722 年製 Violin “Jupiter”）
庄司紗矢香（Stradivarius 1715 年製 Violin “Joachim”）
Baiba Skride（Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”）
Arabella Miho Steinbacher (Stradivarius 1716 年製 Violin “Booth"）
竹澤恭子（Stradivarius 1710 年製 Violin “Camposelice”）
Steven Isserlis（Stradivarius 1730 年製 Cello “Feuermann”）
石坂団十郎（Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”）
東京クワルテット（Stradivarius Paganini Quartet）
（Martin Beaver、池田菊衛、磯村和英、Clive Greensmith）
小林道夫（チェンバロ）
江口玲（ピアノ）

演奏曲目と演奏者

ヴィヴァルディ：4 つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲 ロ短調 Op.3 No.10
（ソリスト） 竹澤恭子（Vn）、庄司紗矢香（Vn）、Erik Schumann（Vn）
Sergey Khachatryan（Vn）、石坂団十郎（Vc）
（オーケストラ） Arabella Miho Steinbacher（Vn）、Baiba Skride（Vn）
Viviane Hagner（Vn）、Yuki Manuela Janke（Vn）
Martin Beaver（Va*）、Steven Isserlis（Vc, viola part）

Clive Greensmith（Vc）、小林道夫（チェンバロ）

C.P.E. バッハ：チェロ協奏曲 イ長調 第二楽章「Largo mesto」

（ソリスト） 石坂団十郎（Vc）

（オーケストラ） 庄司紗矢香（Vn）、竹澤恭子（Vn）、Martin Beaver（Va*）、Clive Greensmith（Vc）、小林道夫（チェンバロ）

J. ヴィートリス：ロマンス（ラトヴィアの楽曲）

Baiba Skride（Vn）、江口玲（ピアノ）

E .バグダサリャン：ラプソディー（アルメニアの楽曲）

Sergey Khachatryan（Vn）、江口玲（ピアノ）

ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調 Op. 10 第三楽章

東京クァルテット（Martin Beaver、池田菊衛、磯村和英、Clive Greensmith）

レオーナード：3 つのヴァイオリンとピアノのためのスペイン・セレナーデ

Baiba Skride（Vn）、Viviane Hagner（Vn）、Yuki Manuela Janke（Vn）
江口玲（ピアノ）

J.S. バッハ：二つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

（ソリスト） Viviane Hagner（Vn）、Arabella Miho Steinbacher（Vn）

（オーケストラ） Erik Schumann（Vn）、竹澤恭子（Vn）、Martin Beaver（Va*）Steven Isserlis（Vc）、小林道夫（チェンバロ）

ブロッホ：ユダヤ人の生活から

Steven Isserlis（Vc）、江口玲（ピアノ）

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op. 20

Viviane Hagner（Vn）、庄司紗矢香（Vn）、Arabella Miho Steinbacher（Vn）
Yuki Manuela Janke（Vn）、磯村和英（Va）、池田菊衛（Va*）
Steven Isserlis（Vc）、Clive Greensmith（Vc）

* 英国王立音楽院所有の Stradivarius1696 年製 Viola “Archinto”を使用

各都市の実施内容

① 大 阪

日　　時	2008 年 9 月 6 日（土） 16：00～18:30
会　　場	いずみホール（821 席）
主　　催	読売新聞社
共　　催	いずみホール（大阪）
特別協力	日本音楽財団
協　　力	日本財団
目　　的	住友生命社会福祉事業団が行う事業を支援するためのチャリティ・コンサート。チケット売り上げから 200 万円が同財団に寄付された。
聴　　衆	約 800 名（内、招待者約 80 名）

② 名古屋

日　　時　　2008 年 9 月 7 日（日） 16:00～18:30
会　　場　　しらかわホール（700 席）
主　　催　　読売新聞社
共　　催　　しらかわホール（名古屋）
特別協力　　日本音楽財団
協　　力　　日本財団
目　　的　　三井住友海上文化財団が行う事業を支援するためのチャリティ・コンサート。チケット売り上げから 200 万円が同財団に寄付された。
聴　　衆　　約 680 名（内、招待者約 80 名）

③ 東 京
日　　時　　2008 年 9 月 8 日（月） 18:00～20:30 （公開リハーサル）
　　2008 年 9 月 9 日（火） 19:00～21:30
会　　場　　サントリーホール（2,006 席）
主　　催　　読売新聞社
共　　催　　サントリーホール（東京）
特別協力　　日本音楽財団
協　　力　　日本財団
目　　的　　サントリー音楽財団が行う事業を支援するためのチャリティ・コンサート。チケット売り上げから 500 万円が同財団に寄付された。
聴　　衆　　9 月 8 日　約 800 名（全席招待　内、親子でコンサート 60 組 121 名）
　　9 月 9 日　約 1,920 名（内、招待者 500 名）

今回の日本ツアーは、前述のとおり日本音楽財団、読売新聞社、いずみホール、しらかわホール、サントリーホールが共同で開催したが、当財団は主に演奏家の旅費、コンサートプログラムの制作、調律と舞台装飾に係わる経費を負担し、読売新聞社は広報とチケット販売、各ホールは会場費と運営に係わる経費を負担した。

読売新聞には、コンサートの開催概要、チケット販売情報の他、塩見理事長へのインタビュー記事も掲載された。一般販売チケットは 4 月に販売が開始されると、即、完売となり、追加公演も検討されたが、集客予測が難しいこと、また、予算上の理由から断念した。追加公演に代わって、9 月 8 日にサントリーホールでのリハーサルを一般公開することとし、来場希望者を招待した。この公開リハーサルには当財団が行う「親子でコンサート事業」登録者も招待した。

チケットの販売による売上金のうち、各ホールの運営団体が行う事業に対して、上記金額がチャリティとして寄付された。

聴衆はチケットを購入した一般入場者の他、当財団が行う楽器貸与事業の広報のため、内外の有識者やオピニオンリーダーを招待した。9 月 9 日の東京公演には皇太子殿下のご臨席を賜った。

コンサートプログラムは貸与者である Steven Isserlis 氏の構成によるもので、ソロパートとオーケストラパートに分かれた小編成のコンチェルトや、ヒューベルト・レオナー

ドの楽曲の日本初演、演奏される機会のあまりないラトヴィアとアルメニアの楽曲など、大変独創的な内容となった。

当財団の楽器貸与者は主にソリストであり、単独での演奏活動が多いことから、演奏家同士の交流は極めて少ない。当財団が 2001 年から年 1 回世界各地で開催している一連のストラディヴァリウス・コンサートは、貸与者同士が一堂に会する貴重な機会であり、親交を深めるとともに、お互いの演奏技術を高める機会となっている。緊張感の中にも演奏家同士の和気藹々とした雰囲気は客席にも伝わり、終演後、聴衆からは、「楽器、演奏家、プログラム、全てが素晴らしく、瞬く間に 2 時間 30 分が過ぎてしまった。」「ストラディヴァリウスは本当に素晴らしい楽器でした。ソロは勿論のこと、この楽器が幾つも合わさったときに発せられる響きからは全音域に亙ってものすごいパワーを感じた。弦楽器を演奏される全ての人が憧れる夢のアイテムということが良く分かりました。」等々数多くの感動した、素晴らしかったという声が聞かれ、反響の大きさを実感することができた。

当日は、当財団の所有楽器や事業活動を掲載したコンサートプログラムを配布した他、ヴァイオリン製作工程を示したパネルを展示し、広報に努めた。

この日本ツアーには多くの貸与者が参加することから、この機会に、当財団の楽器アドヴァイザーであるアンドリュー・ヒル氏による楽器インスペクションを行った。これは、年一回同じ目で楽器の状態を確認するとともに、必要に応じて楽器の取扱いに関して注意を促すことを目的としている。

9 月 9 日の東京公演は株式会社東北新社により収録され、衛星デジタルテレビ クラシカジャパンにて 2009 年 1 月から 3 月の間に 19 回放映された。当財団はこの映像と音源を利用して CD と DVD を制作し、事業の記録と広報に活用した。CD については、衛星デジタルラジオ MUSICBIRD THE CLASSIC に提供し、2009 年 2 月 11 日に放送されたが、これまでに無い大きな反響があったとの報告を受けている。コンサートの模様は、読売新聞、日本テレビでニュース報道されたほか、音楽雑誌等、多くのメディアで取り上げられた。

2) アナ・チュマチェンコ ヴァイオリン・リサイタル

日 時　2009 年 2 月 19 日（木）
　　18:00 レセプション　19:00～20:00 コンサート
会 場　浜離宮朝日ホール
演奏者　Ana Chumachenco（ミュンヘン音楽大学教授、当財団楽器貸与委員）
　　占部由美子（ピアノ、ミュンヘン音楽大学教授）
来場者数　約 500 名
演奏曲目
　シューベルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ イ短調 Op. 137-2 D385
　フランク：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ イ長調

当財団の楽器貸与委員である Ana Chumachenco 教授は、ヨーロッパ随一といわれるヴァイオリン指導者であり、Lisa Batiashvili、Arabella Miho Steinbacher など数多くの著名な演奏家を世に送り出している。同時に、ソリストとしても第一線で活

躍しており、今回のリサイタルでもその素晴らしい演奏に来場者からは感嘆の声が多く聞かれた。

3） 安永徹・市野あゆみ・デュオ・コンサート
日　時　　2008 年 10 月 16 日（木）
会　場　　紀尾井ホール（東京）
本演奏会は、演奏家の体調不良により急遽中止となった。

4） 親子でコンサート
昨年に引き続き、「親子でコンサート」として下記 2 公演に 74 組 149 名の親子を招待した。親子で招待することにより家族間に共通の話題を提供するとともに、将来のクラシック音楽ファンの育成、底辺の拡大に努めた。
① 2008 年 9 月　8 日（月）18:00～　　東京・サントリーホール
「ストラディヴァリウス・コンサート公開リハーサル」（親子 60 組 121 名）
② 2009 年 2 月 19 日（木）19:00～　　浜離宮朝日ホール
「アナ・チュマチェンコ・ヴァイオリンリサイタル」（親子 14 組 28 名）

(5)　海外演奏会の開催
本年度は日本国内で 3 都市開催の演奏ツアーを行ったため、海外演奏会は実施しなかったが、2009 年度実施について協力予定団体と内容等について打合せ等を行った。2009 年度はオーストリア・グラーツ、イタリア・フィレンツェ、フランス・パリの 3 都市で行うことで調整中である。

(6)　その他
ザルツブルク・イースター音楽祭（2009 年 4 月開催）を日本財団が支援（255,000 ユーロ）するにあたり、当財団はその交渉並びに事務手続き等について積極的に協力した。また 2004 年度から衛星デジタルラジオ局「MUSIC BIRD THE CLASSIC（7ch）」並びに衛星デジタルテレビ「CLASSICA JAPAN」の協力を得て、当財団が若手演奏家にストラディヴァリウス等弦楽器名器を無償で貸与している活動をシリーズで紹介している。過去の開催も含め、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD、DVD を演奏家の許諾を得て放送し、弦楽器名器の貸与事業を周知すると同時に、ストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらった。特に地方のクラシック・ファンで、普段なかなかストラディヴァリウスの演奏に触れる機会のない方には、大変喜ばれているとの報告をもらっている。
本年度の放送内容は下記のとおりである。
① 衛星デジタルラジオ　MUSIC BIRD　THE　CLASSIC（7ch）
放送月日
2008 年 6 月 8 日
「庄司紗矢香＆佐藤俊介デュオ・コンサート」
2007 年 9 月 10 日開催の東京オペラシティコンサートホールでのライヴ録音

「石坂団十郎　チェロ・リサイタル」
2007 年 12 月 26 日開催のトッパンホールでのライヴ録音
「Yuki Manuela Janke　ヴァイオリン・リサイタル」
2008 年 2 月 12 日開催の浜離宮朝日ホールでのライヴ録音
2009 年 2 月 11 日
「日本音楽財団創立 35 周年記念　ストラディヴァリウス・コンサート」
2008 年 9 月 9 日開催のサントリーホールでのライヴ録音

② 衛星デジタルテレビ　CLASSICA JAPAN
放送日時：計 19 回
「日本音楽財団創立 35 周年記念　ストラディヴァリウス・コンサート」
2009 年 1 月 25 日（日）12:45、26 日（月）24:00、28 日（水）15:00、29 日（木）8:45
2 月 1 日（日）21:10、4 日（水）8:40、6 日（金）4:00、10 日（火）13:00、
14 日（土）22:20、16 日（月）17:50、19 日（木）10:00
3 月 1 日（日）16:20、3 日（火）25:20、6 日（金）12:00、8 日（日）6:30、
9 日（月）9:40、13 日（金）21:00、22 日（日）17:20、23 日（月）20:40

2. 音楽文化の振興事業「音楽助成金の交付」

(1) 事業の実施内容
本事業は、音楽諸団体の活動を支援して、音楽水準の向上を図るとともに、音楽の振興と普及を図ることを目的としている。助成金交付先は事業運営委員会において慎重に選定を行っている。選定にあたっては、A）マスタークラス、B）指導者の育成、C）子供を対象としたアウトリーチ、D）リハビリ、E）パートナーの育成、の 5 本の柱を中心に審査することとし、個別の案件の審議、決定を行なった。
本年度の事業運営委員会（委員名簿は巻末別表 3）の開催状況は以下のとおり。
第 1 回　2008 年 4 月 16 日（木）14：00～17：00
第 2 回　2008 年 12 月 26 日（月）（書面）
本年度は事業運営委員会で審議した結果、A）マスタークラスが7事業、B）指導者の育成が 4 事業、C）子供を対象としたアウトリーチが 5 事業、D）リハビリが 2 事業、E）パートナー（事業共催者）の育成が 0 事業、その他が 4 事業、合計 22 事業、助成総額 25,000,000 円を決定し、24,631,750 円交付した。　（巻末別表 6 参照）
各団体実施事業内容は次のとおりである。　（出演者及び講師等の敬称は省略）

A）マスタークラスに分類される事業
才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家に先輩たちの音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する場を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

① プロジェクトQ・第6章～若いクァルテット、ハイドンに挑戦する

期　日　公開マスタークラス 2008年9月～12月（5回）
トライアル・コンサート 2009年1月10日～12日
本公演 2009年2月15日

団　体　プロジェクトQ実行委員会

会　場　ドイツ文化センター、浜離宮朝日ホール・リハーサル室、芸能花伝舎
紀尾井小ホール

規　模　受講クァルテット6組24名、 講師15名(原田幸一郎、原田禎夫他)
聴衆 マスタークラス353名（5回） トライアル・コンサート224名（3回）
コンサート279（2回）

助成額　2,000,000円

6 組の若手弦楽四重奏団を対象に、1）国際的なプロの弦楽四重奏者を講師に迎えた公開マスタークラス、2）本番前のトライアル・コンサート、3）ハイドン弦楽四重奏曲演奏会を行った。若手弦楽四重奏団の育成を図るとともに、すべての過程を一般聴衆に公開し、弦楽四重奏の素晴らしさを演奏者と聴衆とが共に体験し共有している。聴衆の中にはリピーターも多く、本マスタークラスの一般公開は着実に定着してきている。昨年（2007）年度の第5章に参加したウェールズ弦楽四重奏団が 2008 年ミュンヘン国際音楽コンクールの室内楽部門において3位入賞を果たした。この分野での日本人の入賞は、1970年に東京クァルテットが優勝して以来 38 年ぶりの快挙であり、本プロジェクトの成果としても高く評価できる。

② ミュージック・マスターズ・コースin かずさ 2008

期　日　2008年6月9日～6月27日

団　体　ミュージック・マスターズ・コースin かずさ実行委員会

会　場　かずさアカデミアホール（木更津）、王子ホール、横浜みなとみらいホール
紀尾井ホール

規　模　受講生34名 芸術監督2名（大友直人、Alan Gilbert）
音楽監督2名 講師12名

助成額　1,000,000円

日本を発信源とするオーケストラ・プレーヤーの育成を目指し、2001 年に第 1 回を開催。今回で第8回を迎えた。オーディションにより選ばれた8ヶ国34名の受講生が参加し、世界のメジャーオーケストラの首席奏者等講師陣から、室内楽及びオーケストラの指導を受けた。レッスンは19日間早朝から深夜まで行われ、受講生の演奏レベルは著しく向上した。同時に、合宿形式で共同生活することにより、受講生間また講師と相互理解を深め、課題解決のノウハウを学ぶ機会となった。練習の成果はロビーコンサートで随時発表され、地元教育員会との連携により開催されたコンサートでは小・中学生や福祉施設の子供達が招待された。本プロジェクトの創設者であり芸術監督である Alan Gilbert 氏（Lorin Maazel 氏の後任として、2009年秋からニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督に就任）は、当財団所有の 1700 年製 Antonio Stradivarius

Violin “Dragonetti”を使用して、講師によるコンサート、総仕上げとして行われた紀尾井ホールでのコンサートに出演した。コンサートには本プロジェクトのOB、OG がオーケストラとして協力している。

③ 第 5 回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま

期　日　2009 年 3 月 21 日～30 日

団　体　クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま 実行委員会

会　場　レッスン会場：茨城県教育研修センター
　　コンサート会場：笠間公民館、友部公民館、県立中央病院など

規　模　受講生 77 名（ヴァイオリン 35 名、ピアノ 42 名）
　　講師 8 名（ヴァイオリン Zakhar Bron 他 2 名、ピアノ 5 名）
　　公開レッスン聴講者 1,800 人
　　講師コンサート 3 回 聴衆 800 人
　　受講生コンサート 聴衆 200 人
　　街角コンサート 7 回 聴衆 700 人

助成額　1,500,000 円

ヴァイオリン、ピアノのマスタークラスを開催し、個人レッスン中心の密度の濃い指導を行った。併せて一部のレッスンを一般に公開するとともに、講師によるコンサート、受講生によるコンサートを低廉な価格により開催し、多くの住民に生の音楽に触れる機会を提供した。また、地元の小中学生を対象とした日本人講師によるセミレッスンの開催（無料）、音楽愛好家による様々なジャンルの街角コンサートを期間中毎日開催、音楽講演会の開催など、市民、行政が一体となり、地域の音楽振興、音楽による街づくりを目指した。

④ 若手演奏家育成プログラム

期　日　2008 年 6 月 9 日～7 月 1 日

団　体　カナダ国立芸術センター National Arts Centre

会　場　カナダ国立芸術センター（オタワ）

規　模　受講生 90 名、 講師 19 名

助成額　15,000 カナダドル（1,593,750 円相当）

Pinchas Zukerman 氏が総合監督を務める本プログラムは、今年 10 回目を迎えた。15 ヶ国から集まった 90 名の受講生は、オーディション参加者 240 名の中から選抜され、弦楽器、吹奏楽器、ピアノ、声楽、指揮、作曲のコースに分かれて一流の現役演奏家による指導を受けた。Pinchas Zukerman 氏と Patinka Kopec 女史（マンハッタン音楽院）によるヴァイオリンのマスタークラスは一般にも公開され、150 人の聴講生を集めた。期間中は同センター付オーケストラとの共演のほか、老人ホームや野外でもコンサートが開催され、大きな反響を呼び成功を収めた。受講生は芸術性と創造性が向上したことで、自信をもって演奏に望むようになり、プロの演奏家としての意識を確立した。

このマスタークラスには当財団所有の 1722 年製 Antonio Stradivarius Violin “Jupiter”の貸与者である Erik Schumann も参加し、本人からも技術的、音楽的に大きな成果を得ることが出来たとの報告がなされている。

⑤ アナ・チュマチェンコ ヴァイオリン・マスタークラス

期　日　2009 年 2 月 21 日

団　体　アナ・チュマチェンコ ヴァイオリン・マスタークラス実行委員会

会　場　白寿ホール（東京）

規　模　受講生 5 名　聴講者 233 名

講師：Ana Chumachenco　通訳：占部由美子

助成額　1,000,000 円

ミュンヘン音楽大学 Ana Chumachenco 教授によるヴァイオリンの公開マスタークラス。50 名の応募者から事前審査によって選ばれた中学生から大学生までの受講生 5 名が、音楽的解釈、技術、体の使い方、また今後の課題点等、示唆に富む指導を受けた。門下生から国際的に活躍する多くの演奏家を輩出し、ヨーロッパにおいてヴァイオリン指導の第一人者とされる同教授のレッスンは、その内容の高さと音楽的深さが広く知られ、世界中から学生が殺到するため、直接レッスンを受けるチャンスは極めて少ないといわれている。今回のマスタークラスは、世界を目指す日本の若いヴァイオリニストに大きな飛躍のチャンスを提供するとともに、選考に漏れた受講希望者を含め学生、指導者など多くの聴衆に同教授のレッスンに接する機会を提供できた。日本の若いヴァイオリニストの育成並びに我が国の音楽文化の向上に大きく貢献した。

⑥ 第 5 回アップビート春期国際音楽セミナー・イン中札内

期　日　2009 年 3 月 5 日～26 日

団　体　アップビート春期国際音楽セミナー実行委員会

会　場　（北海道十勝管内）中札内文化創造センター、フェーリエンドルフ休暇村、中札内美術村、 大樹町障害学習センター、清水町文化センター、池田町田園ホール、帯広六花亭ホール、豊頃町える夢館、六楽堂、幕別町百年記念ホール、音更高等学校、大樹町小学校、豊頃中学校

規　模　講師：ジェラール・プーレ他 5 名、受講生：35 名、演奏家：18 名、聴衆約 4,000 名

助成額　1,000,000 円

1）ヴァイオリン・ピアノ・室内楽・クラリネットのマスタークラスを開催し、受講生 35 名に対し、個人レッスン（3 回以上）中心の指導を行うとともに、レッスンを一般公開した。受講生は世界的に著名な講師による個人レッスンによりその演奏レベルは著しく向上した。

2）国内外からの招聘講師・演奏家・地元演奏家等により十勝管内 7 会場で 8 回にわたり、ブラームス室内楽曲全曲コンサートを実施（1 回券 2,000 円、8 回通し券 10,000 円、小中学生は無料）するとともに、小・中・高生を対象に学校コンサート及び楽器体験ワークショップ、ピアノ講座を実施した。これらのコンサート、ワークショップを通して、中札内を中心とした十勝管内におけるクラシック音楽の普及・浸透が図られた。本セミナーは今回で 5 回目となり、地域住民に音楽のある生活が浸透してきており、「音楽によるまちづくり」が着実に推進されている。

⑦ Tokyo Cantat 2008 ～歌よ魂の憩うところよ～

期　日　2008 年 4 月 29 日～5 月 5 日

団　体　21 世紀の合唱を考える会　合唱集団「音楽樹」

会　場　第一生命ホール　すみだトリフォニーホール
　　滝野川会館（東京都北区）　市民文化会館（桐生）
　　茨城県総合福祉会館（水戸）

規　模　1）第 1 回若い指揮者のための合唱指揮コンクール
　　当日出場者 12 名　聴衆 404 名
　　2）合唱セミナー　東京　受講生 168（2 日間合計）講師 2 名
　　桐生　受講生 236 名　講師 1 名
　　水戸　受講生 300 名　講師 1 名
　　3）コンサート　聴衆 2,112 名（3 公演合計）

助成額　1,000,000 円

本事業は今年 13 回目を迎え、初の試みとして 35 歳までをエントリーの対象とした合唱指揮者コンクールを開催した。聖歌隊の伝統の無い日本では、職業としての合唱指揮者の必要性が薄く、育成のシステムもほとんど存在しないため、本コンクールは合唱指揮者を志す者にとって大きな励みとなった。1 位には副賞として「ノルウェー大使館奨学金」が贈られた。合唱指揮者コンクールは、今後 2 年毎の開催が決定された。合唱セミナーにはノルウェー、オーストリア、ラトビアからそれぞれ 1 名の講師を迎え、東京で発声法とバルト三国の合唱作品紹介の 2 講座、水戸と桐生で合唱発声法の講座が開かれた。水戸と桐生でのサテライトセミナーには様々な世代の合唱団が参加し、地方での文化活動の向上に貢献した。コンサートでは新曲や知られざる名曲が演奏されるため、全国から多くの合唱愛好家が集まり、音楽を楽しむとともに、彼らの交流の場としての機能も果たした。特に 5 月 5 日の招聘講師によるコンサートのリハーサル（4/30、5/1、5/2、5/4）は一般に公開され、合唱指揮者、演奏家にとって、一流の指揮者による指揮法を学ぶ貴重な機会となった。本事業は「音楽の友」、「音楽現代」、「教育音楽」等で取り上げられた。

B）指導者の育成に分類される事業

講習会・研修会の指導者・講師・リーダーを育成することにより、東京以外の地区でも参加者が地域に則した安価で質の高い講習を受けることを可能とする事業。

① 高円宮殿下メモリアル 第 9 回日本マスターズオーケストラキャンプ

期　日　2009 年 1 月 10 日～12 日

団　体　（社）日本アマチュアオーケストラ連盟

会　場　第一生命ホール

規　模　参加者 117 名　講師 3 名（安永徹、市野あゆみ、金田幸男）

助成額　1,000,000 円

全国のアマチュアオーケストラにおいて、コンサートマスターや首席奏者を務め

る中高年奏者のためのリーダー講習会。個人の技術向上だけでなく、講習内容を所属楽団に広め、全体のレベルアップを図ることを目的としている。指導講師はベルリン・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスターの安永徹のほか、市野あゆみ（ピアノ）、金田幸男（ヴァイオリン）の 3 名で、初日から実践的な指導が行われた。研修は 2 泊 3 日で行われ、最終日には公開レクチャーコンサートを開催した。1 月 11 日には高円宮妃殿下もご来場された。全日程を通じて、参加人数の多さや日程の厳しさの中、参加者は向学心に燃え、非常に熱心で講師の安永氏からは「参加者の皆さんは大変熱心で、宿題を出しても翌日にはすぐマスターしてくる。また、夜も質問が多く、期間中は睡眠時間が少なくなった。」とのエピソードも披露された。

② APA2008 河口湖音楽祭

期　日　2008 年 10 月 17 日～20 日
団　体　日本アマチュア演奏家協会（APA）
会　場　山梨県富士河口湖町　サニーデ・ヴィレッジ
規　模　参加者 97 名　ゲストのプロ演奏家 6 名
助成額　1,000,000 円

アマチュア演奏家による日本最大の室内楽音楽祭を開催し、室内楽演奏の普及活動を行った。プロの演奏家による合奏指導、プロ演奏家との合奏、公開コンサートなどの研修により、室内楽演奏者を増やしアマチュアの室内楽公演活動の活性化を図った。例年、この音楽祭には多くの演奏グループから指導的立場にある奏者が参加しており、合宿で得た室内楽の演奏のノウハウを地元に持ち帰ることで各地の活動の活性化とレベルアップに寄与している。

③ 2008 JASTA ストリングセミナー

期　日　2008 年 8 月 3 日～8 月 6 日（長野会場）、8 月 29 日（東京会場）
団　体　日本弦楽指導者協会
会　場　小海リエックス・ホテル、台東区生涯学習センターミレニアムホール
規　模　長野　受講生 70 名　聴講生 15 名　講師 8 名　伴奏者 3 名
　　東京　受講生　2 名　聴講生 59 名　講師 1 名　伴奏者 2 名
助成額　1,000,000 円

長野会場では、子供から大人まで幅広い年代の受講生と一流の講師陣が 3 日間寝食を共にする中で、技術向上だけでなく、音楽性を十分に吸収できる機会となった。期間中はプライベートレッスン、室内楽、合奏、ワンポイントレッスンと様々な練習を集中して行った。その成果は、地元である小海の人々を招いて開催された、ふれあい（修了）コンサートにおいて発表された。

東京においては、Oleh Krysa 教授（イーストマン音楽院）による 2 名の受講生への公開レッスンと同教授のミニコンサートが開催された。同教授の熱意のこもった指導と音楽性溢れるミニコンサートにより、受講生はもとより聴講生にとっても実りある体験となった。

④ 吹奏楽指導者指揮法講習会

期　日　2008 年 11 月 3 日～2009 年 2 月 11 日

団　体　　日本吹奏楽指導者協会
会　場　　北海道、東北（仙台）、関東甲信越（宇都宮）、東海（名古屋）、
　　関西（舞鶴）、九州（熊本）
規　模　　講師 8 名　受講者 153 名　モデルバンド約 200 名
助成額　　1,000,000 円

指揮者である講師を地方に派遣し、正しい指揮法の普及を目的とする。吹奏楽指導者として必要な指揮法について斉藤秀雄著の「指揮法教程」を主材とし、講義、実技、ディスカッションを行った。実技ではピアノ伴奏者またはモデルバンドを指揮し、音楽表現の伝え方、奏者とのコミュニケーションのとり方を体得した。個人指導では基礎の確認、欠点の修正がなされ、受講者にとって貴重な体験となった。

C）子供を対象としたアウトリーチに分類される事業

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動、親子の会話のきっかけ作り等のいろいろな工夫を付加して積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。また各地域のオーケストラ等が行う地域の子供を中心とした住民対象の、地域に根ざした活動に対しても積極的に支援する。

①　あすなろコンサート 2008
期　日　　2008 年 4 月 1 日～2009 年 2 月 25 日
団　体　　あすなろコンサート実行委員会
会　場　　日本全国の僻地小規模小学校 34 校
規　模　　実施校　34 校（応募校数　214 校）
　　生徒数 848 名　教員・保護者 611 名　演奏家 83 名
助成額　　1,000,000 円

「ひとりでも多くの子どもに生の音楽を」を合言葉に、音楽を通したふれあいによって心豊かな社会づくりを目指す、音楽家による社会貢献活動。プロの生の演奏に接する機会が少ない僻地小規模学校（生徒数 100 人以下）に、東京新宿に本部を置く音楽家ユニオンの地方会員である演奏家が、演奏の他、楽器の説明、演奏指導、コーラスのワークショップ等を行った。音楽の授業で扱う曲や校歌にアレンジを加えたり、土地の童謡を取り入れたりする等、選曲に工夫を凝らしている。2001 年の事業開始以来、来校を希望する教育者や保護者が年々増加し、成果を上げている。（当財団は 2002 年から継続して支援）

②　グランシップ＆静響ヤングオーケストラ＋静響ジュニアオーケストラ
期　日　　2008 年 6 月 22 日～2009 年 3 月 29 日
団　体　　NPO 法人　静岡交響楽団
会　場　　静岡グランシップ中ホール・リハーサル室、静岡市民文化会館中ホール
規　模　　コンサート 6 月 22 日　レッスン 4 回（5 月 11 日、18 日、6 月 8 日、21 日）
　　受講生　24 名　　講師　34 名　　観客　795 名

コンサート 9 月 13 日　レッスン 4 回（8 月 17 日、31 日、9 月 7 日、12 日）
受講生 27 名　講師 40 名　観客 813 名
コンサート 3 月 29 日　レッスン 3 回（3 月 1 日、8 日、22 日）
受講生 23 名　講師 18 名　観客 375 名

助成額　638,000 円（交付額 1,000,000 円が決定していたが、実施後の決算額が予算額を下回り、交付額変更の申し出があった。）

本事業は今年で4回目。小学生から高校生までの奏者が、静岡交響楽団がコンサートで演奏する曲目を題材に、同楽団員からパート別レッスンを3～4回受ける。練習曲目は、同楽団の定期演奏会のプログラムに組み込まれ、同楽団員とステージで共演する。過去参加者の中にはプロの演奏家を目指して音楽コースのある高校や音楽大学へ進学する者、地元コンクールで入賞する者も出てきている。また、ヤングオーケストラを応援する観客が年々増え、クラシック音楽ファンの獲得にも貢献している。

③　平成 20 年度めぐろパーシモンホール「アーティスト派遣プログラム」

期　日　2008 年 5 月 15 日～2009 年 3 月 12 日
団　体　（財）目黒区芸術文化振興財団
会　場　1）目黒区立小学校（11 校）　2）目黒区立中学校（3 校）
規　模　派遣アーティスト：延べ 35 人
1）小学生聴衆者計 761 名　2）中学生聴衆者 317 名
助成額　1,000,000 円

直接コンサートホールに来て、音楽鑑賞をする機会の少ない環境にある子どもたちに、彼らのホームグランドへアーティストを派遣する事業。子供たちが優れた芸術に触れ、表現や創造の楽しみを知り、豊かな情操を身につけていく機会の提供を目的としている。事業者、派遣アーティスト、学校による綿密な打合せを行い、プロの生演奏を聴くことはもちろん、アーティストの話し、子どもたちの質問、更に一緒に演奏したり、歌ったりといったプログラムの内容で、「交流」することに重点に置いている。

④　サントリーホールで音楽しよう　vol.12

期　日　2008 年 7 月 9 日
団　体　サントリーホールで音楽しよう事務局
会　場　サントリーホール大ホール
規　模　2 公演　10：30～12：15　13：30～15：15　出演者 41 名　総聴衆 1,175 名
助成額　1,000,000 円

青少年を対象に、1996 年より毎年、プログラム、趣向を替えて開催している。コンサート専用のホールで生演奏の響きを体験し、音楽と真摯に向き合う演奏家の姿を目の当たりにすることで、より豊かな感受性を養うことが目的。当日は会場にレセプショニストを配置し、本番さながらの雰囲気を作り出している。

本事業のため、ソリスト、パーカッショニスト、オルガニスト、在京オーケストラの首席奏者など 41 名によってアンサンブルが特別編成され、全ての演奏曲目がオリジナル、または日常耳にする旋律を取り入れた編曲で、音楽の成り立ちか

らクラシックの名曲に至るまでが理解できるように構成されている。招待された生徒達は、緊張と笑いの緩急で演奏家達自身が演奏を楽しんでいる姿を見て、音楽のもつ力、楽しさを実感した。

⑤ ミュージシャンと音楽であそぼう！～ニューヨークからの贈り物～

期　日　2008 年 11 月 11 日～17日

団　体　くらしに音楽プロジェクト

会　場　港区立南山小学校　港区立芝小学校　港区立高輪台小学校
港区立麻布区民センター
妙高市文化ホール　妙高市立妙高小学校　妙高市立新井小学校

規　模　ワークショップ　参加生徒 392 名（5 校）
ファミリーコンサート　聴衆 800 名
音楽家へのセミナー　講師 8 名　受講生 14 名
パネルディスカッション　パネリスト 4 名　聴衆 45 名

助成額　1,000,000 円

ニューヨークフィルより教育部門ディレクター1 名とティーチングアーティスト・アンサンブル 6 名を招聘し、小学生を対象に音楽で表現することの楽しさを伝えるワークショップとファミリーコンサートを開催した。また、音楽家・教育者・行政担当者などを対象に、ニューヨークフィルの 30 年以上の実績に基づくアウトリーチ活動についての研修・教育セミナー及びパネルディスカッションを開催した。ニューヨークフィルの「可能性を引き出す」教育方法は、子供に自分で考え、表現し、他者も尊重することを学ばせることを意図しており、それを実践していくためにはティーチング・アーティストの養成が不可欠であるとしている。本プロジェクトは、今後の我が国の小中学校における音楽教育及びアウトリーチ活動の在り方に大きなヒントを与えるものと思料される。なお、本事業は NHK、東京 MX テレビ、読売新聞等で大きく取り上げられた。

D）リハビリに分類される事業

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業。

① みんなの音楽会

期　日　2008 年 7 月 26 日～11 月 1 日

団　体　（財）東京ミュージック・ボランティア協会

会　場　静岡県コンベンションアーツセンター、浴風会大ホール（東京）
沖縄市民会館

規　模　静岡　参加者 908 名（出演者・スタッフ 254 名　観客 654 名）
東京　参加者 1,232 名（出演者・スタッフ 801 名　観客 431 名）
沖縄　参加者 469 名（出演者・スタッフ 226 名　観客 243 名）

助成額　1,000,000 円

当該協会は全国の老人施設や身障センター約 460 施設にて療養音楽の実

践、指導者の育成を行っている。高齢者や心身に障害のある方々が、リハビリテーションを目的に楽器の練習に取り組み、その成果を音楽会で発表した。東京開催は34回目、沖縄開催は17回目を迎え、7回目を迎えた静岡会場では出演者、観客とも増加し、いずれの会場も大盛況のうちに終了した。出演者は、日頃の練習の成果を出し切り、参加者間での交流の輪を広げ、自信や活力を見出すことが出来た。

② バリアフリーコンサート「夢・響き愛」第 4 回開催

期　日　2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日
団　体　NPO 法人 町田楽友協会
会　場　町田市民ホール、さくらんぼホール、響きの森ホール
規　模　コンサート 出演者 100 名 聴衆 700 名
　　ミニコンサート 出演者 38 名 聴衆 80 名 練習参加者 450 名
助成額　1,000,000 円

障害者、健常者、プロ・アマ、老若男女の区別なく、お互いの立場を理解しながら、コンサートに向けて練習する。音楽を作り上げる過程で、障害者が自信を持つようになり、動かない手足も動くようになり、良いリハビリになったとの報告を受けている。障害者の真摯な姿勢に刺激を受けた健常者の演奏技術も向上するなど、相乗効果も得られた。今回、初めて点字の楽譜と歌詞が準備され、視覚障害者の参加にも力を注いだ。最終的に開催した合同コンサートを終え、出演した障害者はもちろん、家族の表情にも明るさが見られた。なお、この事業は、出演者はもとより聴衆の中にも多数の障害者、高齢者がおり、多くのボランティアの参加を得て運営されている。

E）パートナーの育成

本年度は該当事業なし。

F）その他

上記 5 項目に該当しない事業であっても、音楽文化の発展に有益と認められる事業。特に、新たな試みの発掘を目的とする。

① 第 3 回蒲郡市青少年国際交流音楽祭

期　日　2008 年 8 月 24 日、25 日
団　体　蒲郡市ジュニア吹奏楽団
会　場　蒲郡市市民会館 ラグーナ蒲郡ラグナシア
規　模　参加者 192 名
　　（蒲郡市ジュニア吹奏楽団 72 名、沖縄県浦添市ジュニア吹奏楽団 38 名
　　中国大連市 44 中学感楽団 53 名、ポーランド・ルブリニエツ市民吹奏楽団
　　29 名）
助成額　1,000,000 円

青少年のための、音楽を通じた国際交流事業。3 ヶ国（日本、中国、ポーランド）4 都市の団体が参加した音楽祭では、団体ごとの演奏と、全ての参加団体

による合同演奏が披露された。その後の昼食会、立食パーティーでは参加者同士が身振り手振りを交えた英語、相手国の言語で交流を図った。2 日間の公演で 1,500 名の聴衆を集め、また、メディアにも取り上げられたことで、多くの人々に当該事業の意義を周知することができた。

② 日本の四季と西洋の調べ～佐藤陽子とともに～

期　日　2009 年 1 月 12 日
団　体　新音楽学校推進会
会　場　愛知県四日市市文化会館
規　模　出演者 75 名　佐藤陽子（ヴァイオリン）、夢藤哲彦（ピアノ）、橋本悦子（笙）、四日市市諏訪太鼓「翔」、四日市市少年少女合唱団
　　聴衆　約 500 名
助成額　700,000 円

新学校音楽推進会は日本古来の雅楽と西洋クラシック音楽との調和による新たな芸術文化の興起を目的に、2005 年より「響きと調和」をテーマとした公演を開催している。本公演で 5 回目を迎えた。内容は雅楽とヴァイオリンのコラボレーションで構成されており、障害児と健常者による和太鼓演奏、佐藤陽子と夢藤哲彦の共演とトーク、橋本悦子と四日市市少年少女合唱団の雅楽「越天楽今様」共演など。和と洋の調和という希少性のみならず、学校音楽教育における和楽器教育の可能性を提唱し、また、世代を超えた交流により、出演者、聴衆ともに貴重な経験となった。なお、本公演の模様は、中日新聞に写真入で紹介された。

③ 第 57 回ミュンヘン国際音楽コンクール入賞記念ウェールズ弦楽四重奏団特別演奏会

期　日　2009 年 3 月 23 日
団　体　ウェールズ弦楽四重奏団特別演奏会実行委員会
会　場　王子ホール（銀座）
規　模　出演者：ウェールズ弦楽四重奏団
　　崎谷直人（Vn）、水谷晃（Vn）、横溝耕一（Va）、富岡康太郎（Vc）
　　来場者：304 人（一般 228 人、招待 76 人）
助成額　1,200,000 円

当財団が 2002 年のプロジェクト開始当初から支援している「プロジェクト Q」の 2007 年度の受講生であった、ウェールズ弦楽四重奏団が 2008 年 9 月に行われた第 57 回ミュンヘン国際音楽コンクールの弦楽四重奏部門において、東京クワルテットが 1970 年に優勝して以来 38 年ぶりに 3 位入賞を果たした。これを記念した演奏会の開催についてプロジェクト Q 実行委員会(実行委員長：原田幸一郎氏)に提案したところ、是非とも実現したいとの回答があり、本事業の実施に至った。公演前に音楽の友、ストリング等の音楽誌にインタビューが掲載され、注目されていたこともあり、前売りチケットは完売。特に彼らと同世代の若い学生たちが多く来場したことは大きな収穫であった。また、演奏発表の場がほとんどない室内楽の若手演奏家にとって、本事業は、勇気を与える記念すべき事業となった。

④ オーケストラ・アンサンブル金沢が実施する音楽文化の普及振興事業

期　日　1）2009 年 3 月 1 日、2）2009 年 3 月 15 日

団　体　（財）石川県音楽文化振興事業団

会　場　石川県立音楽堂コンサートホール

規　模　1）第 6 回石川県学生オーケストラ＆オーケストラ・アンサンブル金沢合同公演

学生 101 名　オーケストラ・アンサンブル金沢 39 名　聴衆 1,204 名

2）音楽堂にあつまれ！0 歳からのクラシック for キッズ

演奏者 11 人　バレエ団 45 名　ナレーター1 名　聴衆 3,335 名

助成額　2,000,000 円

1）石川県内のオーケストラを持つ大学の選抜メンバーが、アンサンブル金沢によるパート別の正確な奏法の指導を半年間受け、オーケストラ・アンサンブル金沢との合同演奏公演を行った。プログラムは学生オーケストラ単独演奏、オーケストラ・アンサンブル金沢単独演奏、そして両者による合同演奏で構成された。学生オーケストラにとって、プロの指導を受け、更に同じステージで共演することは、演奏技術の向上のみならず、精神面でも貴重な経験になった。

2）0 歳児から高齢者まで幅広い世代を対象に演奏会を開催した。プログラムは、フランスの作曲家サン＝サーンスが子供を対象に作曲した「動物の謝肉祭」を分かり易い話と音楽で構成したため、子供たちの音楽に対する興味を引き出し、想像力と表現力を養う良い機会を提供できた。さらに子供ばかりでなく、親や家族など幅広い世代が一緒になって音楽会の楽しさを満喫したことにより、音楽について家族間の会話が増え、クラッシック音楽ファンの裾野拡大にも寄与した。

(2) 事業の成果

A) マスタークラスに関わる支援要請は、海外からの申請も含め増加傾向にあり、クラシック音楽界の未来を担う若手演奏家の育成が、世界全域で重要視されていることが読み取れる。参加した受講生は、国内外の一流の講師陣から演奏技術だけでなく、音楽家としての心構えや楽曲の解釈を学ぶなど演奏活動の総合的なレベルアップを果たしている。本年度は、特筆すべき事項として次の 2 事業が挙げられる。

① 当財団が 2002 年のプロジェクト開始当初から支援している「プロジェクト Q」の 2007 年度の受講生であった、ウェールズ弦楽四重奏団が 2008 年 9 月に行われた第 57 回ミュンヘン国際音楽コンクールの弦楽四重奏部門において 3 位入賞を果たした。この分野での日本人の入賞は、東京クヮルテットが 1970 年に優勝して以来 38 年ぶりの快挙であり、本プロジェクトの成果としても高く評価できる。

② ミュンヘン音楽大学教授として、またヨーロッパ各地でのマスタークラスにおいて多くの若手ヴァイオリニストを育ててきた、名教師 Ana Chumachenco 氏によるヴァイオリンの公開マスタークラスを日本で初めて開催した。5 名の受講生それぞれの年齢、演奏レベルに合わせた適切な指導は、受講生のみならず、聴講者として会場を埋めた音楽学生、音楽家、教育者にとっても非常に大きな刺激となった。なお、本マ

スタークラスの後、受講生 5 名の内 2 名が再度、同教授のマスタークラスを受講するため渡欧している。

B) 指導者の育成分野の講習会や研修会は、アマチュアの演奏活動の全体的な質を向上させる手助けとなっており、東京だけでなく地方での開催も盛んで、参加者が気軽に質の高い講習を受けることが可能となっている。内容も単なる演奏技術だけでなく、より深い音楽への考察を取り入れた講習などが加わり充実してきている。参加者は、各地のアマチュアオーケストラあるいは演奏グループの指導的立場にある奏者であり、研修で得た演奏のノウハウを地元に持ち帰ることで各地の演奏活動の活性化とレベルアップに寄与している。アマチュア演奏指導者の育成は、高齢化社会を迎える今後、ますます需要が高まる事業であり、一昨年からは定年後に楽器を始める人々を対象とした「初心者講座」を開催している事業もある。

C) 子供を対象としたアウトリーチに関連する事業支援要請が増加傾向にあるのは、近年子供に対する芸術文化教育の充実が叫ばれていながら、学校では予算的に積極的に行いづらいという背景が考えられる。子供たちに単なる生演奏を体験させるにとどまらず、クラシック音楽に対する関心の掘り起こしが積極的に行われた。昨年度から支援している「くらしに音楽プロジェクト」では、ニューヨークフィルの教育部門ディレクター1 名とティーチングアーティスト・アンサンブル 6 名を招聘し、小学生を対象に音楽で表現することの楽しさを伝えるワークショップとファミリーコンサートを開催。また、音楽家・教育者・行政担当者などを対象に、ニューヨークフィルの 30 年以上の実績に基づくアウトリーチ活動についての研修・教育セミナー及びパネルディスカッションを開催した。このプロジェクトは、今後の我が国の小中学校における音楽教育及びアウトリーチ活動の在り方に大きなヒントを与えるものと思料されことから、今後も注目していきたい。

D) リハビリに関しては未だ医学的な立証はないが、現在注目を集めている分野であり、今後の更なる発展が期待されている。バリアフリーコンサートでは、障害者と健常者との交流を通して互いに相乗効果を得、また、手足に障害のある参加者が演奏会で手足を動かせるようになるなどのリハビリ効果も見られた。高齢者や障害者の機能回復、障害の軽減を目指す先駆けとなっている事業を支援する意義は大きい。

E) パートナーの育成分野については、本年度は該当事業が無かったが、昨年度、本分野の事業として、演奏会開催事業を実施した、いずみホール（大阪）及びしらかわホール（名古屋）において、当財団創立 35 周年記念ストラディヴァリウス・コンサートを開催した。両ホールとも当財団との協力関係が確立されていたため、リハーサルから本番まで円滑に業務を遂行することができた。今後も、積極的に東京以外の都市でパートナーの育成事業を推進し、協力機関の拡大を図るとともに、当財団の知名度を全国的に高めたいと考えている。なお、本年度、パートナーの育成という範疇ではなかったが、以下に示す事業は、地方のホールとの協力関係を構築するという側面も兼ね備えていたため、参考までに本項に記載する。

① オーケストラ・アンサンブル金沢が実施する音楽文化の普及振興事業（前述）
ホール：石川県立音楽堂コンサートホール

② 庄司紗矢香＆小菅優チャリティ・コンサート：地方における演奏会の開催（後述）
ホール：福岡シンフォニーホール（アクロス福岡）

3.　地方における演奏会の開催事業

地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、クラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の事業、特に、楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を図った。

庄司紗矢香＆小菅優チャリティ・コンサート　～「子どもの村福岡」建設支援～

日　時	2009 年 1 月 19 日（月） レセプション 17:30～18:30　演奏会 19:00～20:30
場　所	福岡シンフォニーホール　アクロス福岡　（1,867 席）
主　催	子どもの村福岡建設支援実行委員会 （TVQ九州放送、福岡・オーストリア・ウィーン倶楽部）
共　催	（財）アクロス福岡
協　賛	九州電力(株)、福岡商工会議所、西部ガス（株）、（株）九電工、その他
後　援	福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、その他
協　力	日本財団
特別協力	日本音楽財団
チャリティー先	NPO 法人　子どもの村福岡を設立する会
出　演	庄司紗矢香（Stradivarius 1715 Violin “Joachim”使用） 小菅優（ピアノ）
演奏曲目	シューベルト：ヴァイオリン・ソナティナ　第 3 番 ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ　第 2 番 ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ　第 7 番

世界的な NGO「SOS キンダードルフ」の理念に基づき、福岡に「子どもの村」建設を目指す「NPO 法人子どもの村福岡を設立する会」の趣旨に賛同し、これを支援するためのチャリティ・コンサートとして開催した。2008 年 3 月に続き、今回 2 回目となる。なお、「子どもの村福岡」は、2010 年春の開村を目指している。

NGO「SOS キンダードルフ（子どもの村）」は、1949 年、第 2 次世界大戦後のオーストリアにはじまり、戦争や災害、親の病気、虐待や育児放棄など家庭に恵まれない子どもを引き取り、家庭に近い環境で養育しようとするもので、その活動は、現在、世界 131 ヶ国に広がっている。

演奏会のチケットは、昨年は全席 3,000 円で販売されたが、会場であるアクロス福岡より、他のコンサートとのバランスから、今回は最低料金を 4,000 円にして欲しいとの意向が出されたため、全席指定 4,000 円で販売された。当日は、コンサートに先立ち、子どもの村福岡の建設を支援している福岡・オーストリア・ウィーン倶楽部の会員を中心とした福岡県の有力者、約 80 名が参加したレセプションを開催し、音楽を共通分母とする交流・歓談の場を提供した。

なお、演奏会の入場料売上げは、「NPO 法人子どもの村福岡を設立する会」に全額（約 576 万円）が寄付された。

コンサート入場者には、当財団のパンフレットを配布、更にコンサートホールのホワイエにヴァイオリンの製作プロセスを示した財団所有のパネルを展示し、当財団の広報に努めた。コンサートを通じて当財団の楽器貸与事業に対する理解がより深まったと思料される。演奏会の実録 CD を作成し、子どもの村の支援者に配布する等、当財団の事業の広報に活用した。

4. 協 力 事 業

関連団体の主催する事業に、下記内容の協力を行った。

（1）名　　称　　第 5 回日本太鼓シニアコンクール
　　期　　日　　2008 年 11 月 23 日（日）
　　会　　場　　七尾市和倉温泉観光協会（石川県）
　　主　　催　　（財）日本太鼓連盟、（社）石川県太鼓連盟、
　　（財）石川県芸術文化協会、北國新聞社
　　協力内容　　（財）日本音楽財団賞として、賞状及びカップ 1 基贈呈

（2）名　　称　　第 51 回東京国際ギターコンクール
　　期　　日　　2008 年 12 月 14 日（日）
　　会　　場　　東京文化会館小ホール
　　主　　催　　（社）日本ギター連盟
　　協力内容　　後援名義「財団法人日本音楽財団」の使用許諾

（3）名　　称　　第 4 回仙台国際音楽コンクール
　　期　　日　　2008 年 10 月募集開始～2010 年 6 月 27 日（日）ファイナル
　　会　　場　　仙台市青年文化センター
　　主　　催　　仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市
　　協力内容　　後援名義「財団法人日本音楽財団」の使用許諾

（4）名　　称　　クレモナ弦楽器展
　　Cremona 1730-1750：the Olympus of Violin Making
　　期　　日　　2008 年 9 月 25 日～10 月 21 日
　　会　　場　　ストラディヴァリウス博物館（イタリア共和国クレモナ）
　　主　　催　　ストラディヴァリ・クレモナ財団
　　Fondazione Antonio Stradivari Cremona – La Triennale
　　協力内容　　当財団所有の以下の楽器 2 挺を出展協力
　　① 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”
　　② 1740 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Ysaye”

5. 広 報 活 動

日本音楽財団の事業活動を広く世の中に周知するため、以下のような広報活動を展開している。

(1) 財団パンフレット(日本語、英語併記)を作成し、広く一般に配布している。

(2) ホームページ(日本語、英語)にて、財団の事業活動全般について紹介している。

(3) 財団主催演奏会の CD、DVD を作成し、国内外の音楽関係機関、オピニオンリーダー等に配布している。本年度作成した CD、DVD は以下のとおり。

1) 日本音楽財団創立 35 周年記念 ストラディヴァリウス・コンサート (2008 年 9 月 9 日)

2) 庄司紗矢香＆小菅優チャリティー・コンサート(2009 年 1 月 19 日)

3) アナ・チュマチェンコ ヴァイオリン・リサイタル(2009 年 2 月 19 日)

(4) 楽器貸与者との間で締結している貸与契約書に以下の内容を明記し、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。

1) 貸与者は、報道機関のインタビューや公演会プログラムにおいて、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を周知・広報する。

2) 貸与楽器による演奏が、CD、DVD 等の形で制作されるときは、貸与者は、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を当該制作物に明確に表示する。

3) 貸与者は、1 年に 1 度、3 月末日に前年 4 月からの演奏会(開催日、開催場所、演奏曲目、入場者数等)並びに CD、DVD 制作に関する活動内容報告書を日本音楽財団に提出する。

本年度、長期貸与者 18 名のうち 2 名(演奏委託者であるピンカス・ズッカーマン氏及びベルリン・フィルハーモニーのコンサートマスターである安永徹氏)を除いた 16 名から提出された報告によると、2008 年度における財団所有楽器を使用した演奏会は 824 回、聴衆は合計で約 92 万人となっている。

また、長期貸与者が本年度中にリリースした CD は以下のとおりである。

① 諏訪内晶子 ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ (2008 年 4 月)

② Sergey Khachatryan Shostakovich, Franck Violin Sonatas (2008 年 4 月)

③ Clive Greensmith Brahms and Schumann Cello Works (2008 年 4 月)

④ Erik Schumann Prokofiev Violin Sonatas (2008 年 4 月)

⑤ Baiba Skride Souvenir Russe (2008 年 8 月)

⑥ Lisa Batiashvili Beethoven Violin Concerto (2008 年 12 月)

⑦ Arabella Miho Steinbacher Sonaten für Violine und Klavier(2008 年 12 月)

⑧ 東京クワルテット Beethoven String Quartets Op.74 & 95 (2009 年 1 月)

(5) 衛星デジタルラジオ局「MUSIC BIRD THE CLASSIC」並びに衛星デジタルテレビ「CLASSICA JAPAN」の協力を得て、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD、DVD を放送し、不特定多数の方々にストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらい、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。(前述)

別表 1

財団法人 日本音楽財団理事・監事名簿

（2009 年 3 月 31 日現在、敬称略）

会　長	小林　實	（財）地域活性化センター顧問
理事長	塩見和子	常勤
常務理事	小関悦男	常勤

（以下理事はアルファベット順）

理　事	海老澤　敏	新国立劇場オペラ研修所所長
理　事	長谷川和年	世界平和研究所理事、元駐オーストリア大使
理　事	畠山向子	（財）畠山記念美術館館長
理　事	日野原重明	聖路加国際病院名誉院長
理　事	岩淵龍太郎	ヴァイオリニスト
理　事	児玉幸治	（財）機械システム振興協会会長
理　事	熊谷直彦	三井物産（株）相談役
理　事	松木康夫	新赤坂クリニック名誉院長
理　事	新田　勇	（株）東芝社友
理　事	佐治俊彦	毎日新聞社社友
理　事	植村伴次郎	（株）東北新社会長
理　事	頼近美津子	コンサートプランナー
監　事	垣見　隆	弁護士
監　事	山内悦嗣	公認会計士

別表 2

財団法人 日本音楽財団評議員名簿

（2009 年 3 月 31 日現在、敬称略）

（アルファベット順）

安　倍　　寧	音楽評論家
リシャール・コラス	シャネル（株）社長
海 老 沢 勝 二	日本相撲協会横綱新議員会委員長
藤　田　　潔	（株）ビデオプロモーション会長
木　全　ミ　ツ	NPO 法人女子教育奨励会理事長
清　原　武　彦	産経新聞社会長
小　林　道　夫	ピアニスト、チェンバロ奏者
前　　和　男	東京音楽大学顧問
奈　良　久　彌	（株）三菱総合研究所特別顧問
須　磨　久　善	（財）心臓血管研究所付属病院スーパーバイザー 心臓外科医
丹　治　　誠	イーバンク銀行（株）会長
矢　野　文　一	（財）自治総合センター監事

別表　3

事業委員名簿

（2009 年 3 月 31 日現在、敬称略）

楽器貸与委員　（欧州・米国・アジアの代表で構成）

委員長	Lorin Maazel	指揮者
	Marta Casals-Istomin	マンハッタン音楽院前学長
	Ana Chumachenco	ミュンヘン音楽大学教授、ヴァイオリニスト
	Kyung-Wha Chung	ヴァイオリニスト
	海 老 澤　　敏	日本音楽財団理事
	Jean-Pierre de Launoit	エリザベート王妃国際音楽コンクール理事長
	Curtis Price	英国ロイヤル・アカデミー・オブ・ミュージック前学長
	Janos Starker	インディアナ大学音楽学部教授、チェリスト
	塩　見　　和　子	日本音楽財団理事長

事業運営委員

委 員 長	鹿 海 信 也	元文化庁文化部長 （社）日本芸能実演家団体協議会参与

（以下委員はアルファベット順）

委　　員	藤 掛 廣 幸	作曲家
委　　員	岩 井 宏 之	音楽評論家
委　　員	川 本 統 脩	洗足学園大学講師
委　　員	齋 藤 一 郎	東京芸術大学名誉教授
委　　員	関 根 五 郎	（財）NHK 交響楽団団友
委　　員	塩 見 和 子	本財団理事長

別表　4

財団保有楽器の概要

（2009 年 3 月 31 日現在）

Antonio Stradivarius “Paganini Quartet”

ストラディヴァリのクヮルテットは地球上に 6 セットしか存在しないと言われているが、このクヮルテットはそのうちの 1 つである。19 世紀におけるイタリアの卓越したヴァイオリンの巨匠ニコロ・パガニーニ（1782-1840）が、クヮルテット演奏に相応しい 4 挺を収集し演奏していたことからこの名前が付けられた。パガニーニは、特にヴィオラの音質に感銘を受けたためフランスの作曲家エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）にヴィオラのための交響曲を委託し、その結果『イタリアのハロルド』が作曲された。当財団は 4 挺を常にセットとして使用し続けてもらうために、現在「東京クヮルテット」に貸与している。

このクワルテットは、1680 年製作のヴァイオリン、1727 年製作のヴァイオリン、1731 年製作のヴィオラ、1736 年製作のチェロにより構成されている。

1994 年 2 月に米国・ワシントン D.C.のコーコラン美術館から当財団が購入したものである。

1700 年製　Antonio Stradivarius Violin “Dragonetti”

このヴァイオリンはネックの部分が製作当時のオリジナルのままという、とても貴重な楽器である。著名なコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ（1763-1846）によって所有されていたことから現在この名前で呼ばれている。ドラゴネッティは、コレクションとして、コントラバス、ヴァイオリン、チェロ、ハープ、ギターなどを収集していた。最近では、世界的なヴァイオリン奏者、フランク・ピーター・ツィンマーマン（1965-　）によって世界各国で演奏されていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1702 年製　Antonio Stradivarius Violin “Lord Newlands”

イギリスのニューランズ卿（1890-1929）によって生涯大切に所有されていたため現在このように呼ばれている。1964 年から 1982 年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973 年にバースの古楽器名器展示会にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示した。世界的に著名なヴァイオリン奏者アイザック・スターン（1920-2001）はこの楽器を演奏した際、自身が所有しているデル・ジェスと同じパワーを感じる、と語っていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”

この楽器を 1880 年頃に所有していたイギリスの著名な天文学者であるウィリアム・ハギンス卿（1824-1910）に因んで「ハギンス」と呼ばれている。この楽器は 1997 年以降ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に貸与され、4 年ごとに次の優勝者に引き継がれている。過去の優勝者はデンマークのニコライ・ズナイダー（1997）、ラトビア出身のバイバ・スクリッド（2001）で、現在は 2005 年の優勝者セルゲイ・ハチャトリアンに貸与。なお、2009 年よりコンクールの周期が 3 年ごととなるため、貸与期間も 3 年となる。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1709 年製 Antonio Stradivarius Violin “Engleman”

このヴァイオリンは、海軍中佐ヤングが第 2 次世界大戦で戦死して手離されるまでの 150 年間、ヤング家で大切に保管されていたため、音色も楽器の保存状態も稀なほど良好である。当財団が所有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため「エングルマン」と呼ばれている。

1996 年 5 月に当財団が購入したものである。

1710 年製 Antonio Stradivarius Violin “Camposelice”

このヴァイオリンは 1880 年代にカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。その後 1894 年にボストンで美術館を設立したジャック・ガードナー夫人の手に渡り、作曲家でありヴァイオリン奏者であったマーティン・ローフラーによって 1928 年まで演奏・保管されていた。1937 年にはクレモナ楽器名器展示会にキューネ博士のコレクションとして展示されている。財団が購入する前は、30 年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切にされてきた楽器である。楽器の内側の状態はオリジナルのままであり、楽器全体の状態は良好である。

2004 年 9 月に当財団が購入したものである。

1714 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dolphin”

この楽器は現在最も知名度の高い名器の 1 つといっても過言ではない。音色並びに保存状態も優れており、1715 年製「アラード」と 1716 年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの 3 大傑作の 1 つと言われている。この楽器は、過去に巨匠ヤシャ・ハイフェッツ（1901-1987）によって使用されていた。裏板の美しいニスの光沢と色がまるで優美なイルカのようだということから、1800 年代後半の所有者でありロンドンの楽器商のジョージ・ハートが「ドルフィン」という名を付けた。

2000 年 2 月に当財団が購入したものである。

1715 年製 Antonio Stradivarius Violin “Joachim”

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム (1831-1907) が所有していた 5 挺のストラディヴァリウス 1715 年製ヴァイオリンの 1 つである。この楽器はヨアヒムからヴァイオリン・レッスンを受けていたヨアヒムの兄弟の孫娘アディラ・アラニに遺贈されたため「ヨアヒム＝アラニ」としても知られている。日本音楽財団が購入するまで、アラニ家に代々受け継がれてきた。

2000 年 9 月に当財団が購入したものである。

1716 年製 Antonio Stradivarius Violin “Booth”

1855 年から 1856 年にかけてイギリスのブース夫人が息子のために購入し所有していたため、現在の名前が付けられた。1931 年にはアメリカの名高いヴァイオリン奏者、ミシャ・ミシャコフ（1896-1981）の手に渡った。1961 年には、このヴァイオリンはニューヨークのホッティンガー・コレクションの一部となり、そのコレクションカタログにも写真が掲載されている。

1999 年 1 月に当財団が購入したものである。

1717 年製 Antonio Stradivarius Violin “Sasserno”

1845 年からフランスのサセルノ氏が所有していたことから「サセルノ」と呼ばれている。1894 年にはヴァイオリン奏者のオト・ペイニガーによって所有され、後にイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスが購入した。1906 年にはイギリスの産業資本家ジョン・サマーズの手に渡り、それ以後 90 年以上同家で大切に保管されていたため、製作時のままの素材が多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999 年 5 月に当財団が購入したものである。

1721 年製 Antonio Stradivarius Violin “Lady Blunt”

このヴァイオリンは、ラブレス伯爵の娘で、詩人として有名なバイロンの孫娘のレディアン・ブラントが所有していたことからこの名前で呼ばれている。アシュモレアン博物館所有の 1716 年製「メシア」そして 1690 年製「タスカン」と同様、ほとんど未使用。保存状態が非常に優れており製作当時のオリジナルのネックとバス・バーが残っている。糸巻きの箱の中に"P.S"と記されているのは、アントニオ・ストラディヴァリの息子、パオロが所有していたときに付記された。

2008 年 6 月に当財団が購入したものである。

1722 年製 Antonio Stradivarius Violin “Jupiter”

このヴァイオリンは、1800 年頃にイギリスの偉大な収集家で当時の所有者のジェームス・ゴディングが名付けたと言われている。また、大切に使用されてきたため保存状

態が素晴らしく、オリジナル・ニスも十分に残っている。日本が世界に誇るヴィオリン奏者、五嶋みどり（1971-　）も演奏したことがある名器である。
1998 年 5 月に当財団が購入したものである。

1725 年製 Antonio Stradivarius Violin “Wilhelmj”

1866 年以降、約 30 年間この楽器を所有していた著名なドイツのヴァイオリン奏者、オウガスト・ウィルヘルミ（1845-1908）に因んで「ウィルヘルミ」という名が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者として華のあるうちに引退したい」と言い、アメリカの弟子に手渡されたという。
2001 年 6 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz”

内側に貼られたラベルにストラディヴァリ本人の手書きで「92 歳の作品」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体にきれいに残っており、保存状態も音色も格段に優れている。1874 年以降、イギリスの収集家ムンツ氏が所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737 年に死去したストラディヴァリが、亡くなる直前に製作した楽器の 1 つとして知られている名器である。
1997 年 7 月に当財団が購入したものである。

1696 年製 Antonio Stradivarius Cello “Lord Aylesford”

アマチュア奏者として有名であったイギリスのアイレスフォード卿が 1780 年代初期にイタリアの名高いヴァイオリン奏者フェリーチェ・デ・ジャルディーニ（1716-1796）から購入し、その後アイレスフォード家に約 100 年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946 年にはアメリカ在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー（1903-1976）の手に渡り、続いて 1950 年から 1965 年には世界が認めるチェロの巨匠ヤーノシュ・シュタルケル（1924-　）によって演奏会や 35 枚のレコーディングのために使用された。
2003 年 6 月に当財団が購入したものである。

1730 年製 Antonio Stradivarius Cello “Feuermann”

通常のチェロと比べ、楽器本体の部分の細長い形が特徴である。世界的に著名なオーストリアのチェロの巨匠、エマニュエル・フォイアマン（1902-1942）が 1930 年から、演奏活動やレコーディングに使用したことから、「フォイアマン」と呼ばれている。1956 年には、ブラジル出身のチェロ奏者、アルド・パリソットの手に渡った。
1996 年 12 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、グァルネリ・デル・ジェス（1698～1744）の手によるヴァイオリン。イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前で親しまれている。日本音楽財団ではストラディヴァリとグァルネリによって同じ 1736 年に製作された 2 挺の「ムンツ」を保有しており、その 2 挺を弾き比べるために 2000 年 7 月と 2007 年 2 月の 2 回、演奏会を東京で開催し、音色を披露違いの聴き比べを行った。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”

この楽器はベルギーの国家的ヴァイオリン奏者ウジェーヌ・イザイ（1858-1931）が所有していたことから「イザイ」という名が付いた。イザイの提案でベルギーのエリザベート王妃が 1937 年に実現したのが前述のエリザベート王妃国際音楽コンクールである。この楽器の中には小さなラベルが貼られ、赤いインクで「このデル・ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった」とフランス語で書かれている。イザイ国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進した名器である。その後、1965 年に世界的に著名な巨匠アイザック・スターン（1920-2001）の所有となり生涯愛用した。

1998 年 3 月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス・ヴァイオリン 15 挺、ストラディヴァリウス・チェロ 3 挺、ストラディヴァリウス・ヴィオラ 1 挺、グァルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン 2 挺の合計 21 挺の弦楽器を所有している。

別表5

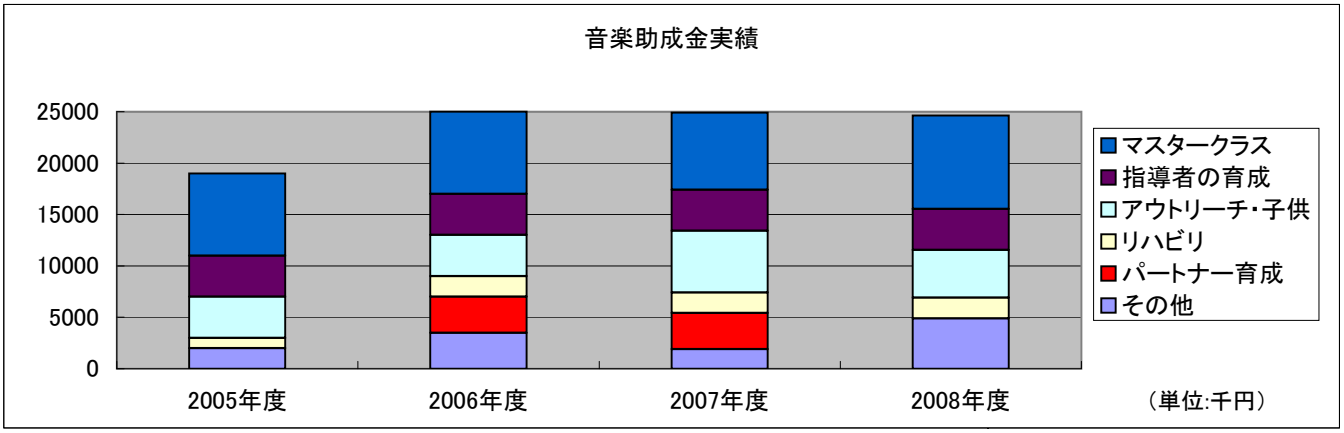
楽器名と貸与者一覧

2009/3/31 現在

楽器名	貸与演奏家	貸与開始	備考
(長期貸与)			
Antonio Stradivari "Paganini Quartet"	Tokyo String Quartet	1995/9/27	
①Violin 1680	池田菊衛	1995/9/27	ﾆｭｰﾖｰｸ在住
②Violin 1727	Martin Beaver	2002/6/1	〃
③Viola 1731	磯村和英	1995/9/27	〃
④Cello 1736	Clive Greensmith	1999/6/25	〃
⑤Antonio Stradivari 1708 Violin "Huggins"	Sergey Khachatryan	2005/5/31	2005年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄ国際ｺﾝｸｰﾙ優勝者 ｴｯｼｭﾎﾞﾙﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑥Antonio Stradivari 1709 Violin "Engleman"	Lisa Batiashvili	2001/11/20	ﾐｭﾝﾍﾝ在住
⑦Antonio Stradivari 1710 Violin "Camposelice"	竹澤恭子	2005/3/7	日本在住
⑧Antonio Stradivari 1714 Violin "Dolphin"	諏訪内晶子	2000/8/11	ﾊﾟﾘ在住
⑨Antonio Stradivari 1715 Violin "Joachim"	庄司紗矢香	2001/4/14	ﾊﾟﾘ在住
⑩Antonio Stradivari 1716 Violin "Booth"	Arabella Steinbacher	2005/5/6	ﾐｭﾝﾍﾝ在住 2005/5より Strad. Muntz貸与 2006/9より Booth貸与
⑪Antonio Stradivari 1717 Violin "Sasserno"	Viviane Hagner	1999/5/27	ﾍﾞﾙﾘﾝ在住
⑫Antonio Stradivari 1722 Violin "Jupiter"	Erik Schumann	2005/11/1	ｹﾙﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2005/11/1-2006/12/29del Gesu Muntz 2006/12/29よりJupiter貸与
⑬Antonio Stradivari 1725 Violin "Wilhelmj"	Baiba Skride	2001/5/29	ﾊﾝﾌﾞﾙｸ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2001年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄｺﾝｸｰﾙ優勝者 2001/5/29～2005/2/22"Huggins貸与"
⑭Antonio Stradivari 1736 Violin "Muntz"	Yuki Manuela Janke	2007/11/2	ｸﾞﾛｰﾍﾞﾝｾﾞﾙ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑮Antonio Stradivari 1696 Cello "Lord Aylesford"	石坂団十郎	2004/1/29	ﾍﾞﾙﾘﾝ在住
⑯Antonio Stradivari 1730 Cello "Feuermann"	Steven Isserlis	1998/1/16	ﾛﾝﾄﾞﾝ在住
⑰Guarneri del Gesu 1740 Violin "Ysaye"	Pinchas Zukerman	2003/5/20	ｵﾀﾜ(ｶﾅﾀﾞ)在住
(短期貸与)			
⑱Antonio Stradivari 1700 Violin "Dragonetti"			ﾛﾝﾄﾞﾝのHill氏の下、楽器修理中
⑲Guarneri del Gesu 1736 Violin "Muntz"	千葉純子	2009/1/29	CDﾚｺｰﾃﾞｨﾝｸﾞ及び演奏会のため 2009/7/31まで
(その他)			
20 Antonio Stradivari 1702 Violin "Lord Newlands"			安永徹氏への長期貸与(2003/1/7-2009/3/3)終了後、ｼｭﾄｯﾄｶﾞﾙﾄ(ﾄﾞｲﾂ)のKostler氏の下、楽器調整中。
21 Antonio Stradivari 1721 Violin "Lady Blunt"			

長期貸与用17挺、短期貸与用2挺、その他2挺　現在保有楽器　計21挺

別表 6



	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
マスタークラス	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000
	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	2,000	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000
	上海音楽院	2000	モスクワ国際舞台芸術センター	1,000	ﾒｯｸﾚﾝﾌﾞﾙｸ･ﾌｫｱﾎﾟﾒﾙﾝ音楽祭	2,000	ｱﾅ･ﾁｭﾏﾁｪﾝｺ･ｳﾞｧｲｵﾘﾝ･ﾏｽﾀｰｸﾗｽ実行委員会	1,000
	Musikhochschule Trossingen(ドイツ)	2,000	ダミーチ・ストリング・クワルテット	2,000	(財)関信越音楽協会	1,000	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000
							合唱人集団「音楽樹」	1,000
							カナダ国立芸術センター	1,594
	インターナショナル・チェロ・コングレス・イン神戸	1,000	石川県吹奏楽連盟(こまつ芸術劇場うらら)	1,000	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500
指導者の育成	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000
	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000
	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000
	日本アマチュアオーケストラ連盟	1000	日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000
アウトリーチ	日本音楽家ユニオン	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000
	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000		
	NPO静岡交響楽団	1000	NPO静岡交響楽団	1,000	NPO静岡交響楽団	1,000	NPO静岡交響楽団	638
					目黒区芸術文化振興財団	1,000	目黒区芸術文化振興財団	1,000
	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう実行委員会	1,000	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう実行委員会	1,000	それいけ！ｵﾙｶﾞﾝ探検隊事務局	1,000	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう事務局	1,000
					くらしに音楽プロジェクト	1,000	くらしに音楽プロジェクト	1,000
リハビリ	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000
			町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000
パートナー			神奈川芸術文化財団	1,500	しらかわホール	1,500		
			しらかわホール	2,000	いずみホール	2,000		
その他	ロイヤルチェンバーオーケストラ(チャリティコンサー	1500	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000	自由演奏会inｸﾞﾗﾝｼｯﾌﾟ実行委員会	414	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000
			日本モーツアルト協会	2,000	NPO法人芸術振興市民の	1,000	新学校音楽推進会	700
							石川県音楽文化振興事業団	2,000
	日本合唱指揮者協会	500	日本合唱指揮者協会	500	日本合唱指揮者協会	500	ウェールズ弦楽四重奏団特別演奏会実行委員会	1,200
	16件	19,000	20件	25,000	22件	24,914	22件	24,632

＊ は新規

1. マスタークラス

才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家にとっては音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する貴重な機会を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

2. 指導者の育成

講習会・研修会の指導者を育成することにより、新しい地区で分散して効率的に講習会・研修会を開催を可能にするとともに、参加者が気軽に質の高い講習を受けることを可能とする事業。

3. 子供のためのアウトリーチ

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動などを付加して、積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。

4. リハビリ

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業

5.パートナー(事業共催者)の育成

今後、当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今までの国内・海外での演奏会のノウハウを提供することによって協力関係を築く。助成事業ではあるが、場合によっては当財団が共催者として演奏家の招聘を行なう等の色々な協力を行なう。

6. その他

上記のとおり 2008 年度事業報告書を提出いたします。

2009 年 6 月 3 日

財団法人　日 本 音 楽 財 団

会　　長　　小　　林　　實　　㊞

理 事 長　　塩　　見　　和　　子　　㊞

2008 年度事業報告書を監査した結果、適正かつ妥当であることを確認します。

2009 年 6 月 3 日

監　　事　　垣　　見　　隆　　㊞

監　　事　　山　　内　　悦　　嗣　　㊞